

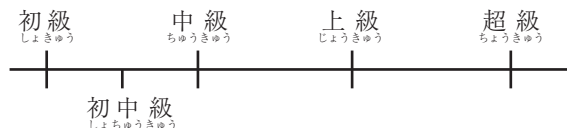
文法を楽しく!!

「に対して・について」

通信で習った項目：「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～ている、～である、～てくる、～ていく、～ために、～ように、～たら、～と、～て、～なくて/ないで、現象描写・判断・働きかけ

に対して・について

日本語教育で「中級レベル」と言ったとき、皆さんはどういう段階だととらえていますか。各レベルを直線的に図示すると、次のようになりますね。



「中級とは何か」についてはいろいろな考え方があるようですが、私は「中級レベル」を次のようにとらえています。

- 1) 「初級」を発展、集大成する段階
- 2) 意見や考えを説明する力を養成する段階
 - 1) は「初級で詰め込まれた事柄を統合し、熟成・醗酵させ、学習者自らの発話につなげていく段階」であり、2) は「意見や考えを筋道を立てて述べるために、それに応じた文型・表現を新たに学ぶ段階」と言えるでしょう。

次の学習者Aの発話を見てください。Aは上級レベルの学生で、この発話は、日本の「食べ放題」「飲み放題」などの「〇〇放題」についてのディスカッションのクラスで行われたものです。

(1) それだったら、考える、考えるとやっぱりおもしろいんですが、かえってそういうサービスを受ける、受けてる人達はその価値観を発展できないと思います。なぜかっていうと、その、あるサービスはいくらかかるか、とか、その、もし、その乗り放題だったらいくらかかるか、でも、その、もっともっと深く考えると、その場合は、何と言うか、仕事した時間とか努力したおかげですとかそういう価値観がわからなくなってしまうと思いますので、そういう面から考えるとやっぱりちょっと・・・。

Aは「〇〇放題」というシステムに反対しています。その理由は、一定の金額でいくらでも食べられたり

飲めたりすると、人は食べられるだけ食べよう、飲めるだけ飲もうという感覚になって、それらの物自体や、それらが準備されたことに対する感謝の気持ちがなくなるのではないかと考えるからです。

しかし、Aの発話は何を言いたいのか、わかるようでよくわかりません。ディスカッションの中でのことばなので、「よどみ」や「繰り返し」が入っているためにわかりにくいかもしれません。では、(1)からそれらを取り除いてみましょう。

(2) 考えるとおもしろいんですが、かえってそういうサービスを受ける人達はその価値観を発展できないと思います。なぜかっていうと、サービスはいくらかかるか、とか、乗り放題だったらいくらかかるか、もっと深く考えると、その場合は、仕事した時間とか努力したおかげだとかそういう価値観がわからなくなってしまうと思いますので、そういう面から考えるとやっぱりちょっと・・・。

いかがですか。わかりやすくなりましたか。(2)は(1)よりわかりやすくなったような気もしますが、Aが何を言いたいのかが、依然、的確には伝わってきません。

(3)はAの発話を私自身が訂正したものです。

(3) 〇〇放題のサービスを受ける人達は、価値というものに対する考え方を深めることができないと思います。〇〇放題の場合は、あるサービスに対していくらかかるのか、たとえば、仕事した時間とか努力した結果などに対する価値というものわからなくなってしまうやすいので、そういう面から考えると〇〇放題というのはやっぱり問題だと思います。

いかがですか。少しわかりやすくなったのではありませんか。(3)は(1)(2)と比べていくつかの点で異なっています。下線を引いたように、「～というもの」

「～というのは」「～に対する」「～に対して」などが現れています。このような表現を用いることによって、何が言いたいかわかりやすくなっています。言い換えれば、このような表現を用いることによって「意見や考えを筋道を立てて述べる」ことができると言えます。そして、このような文型や表現を学ぶ段階が「中級レベル」になります。

今回からしばらく「中級レベル」の文法を勉強していきたいと思います。今回は助詞相当語や複合格助詞と呼ばれる「に対して」と「について」です。

では、まず、次の問題に答えてください。

問題 次の()に「に対して」か「について」を入れてください。両方入る場合もあります。

1. 田中さんの意見() どう思いますか。
2. 田中さんの顔() どう思いますか。
3. 田中さん() 話してください。
4. 田中さん() 文句を言わないでください。
5. 急激な少子化() 政府は出産・育児支援政策を打ち出した。

できましたか。答えは次のようです。

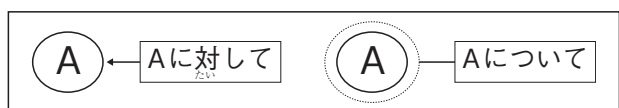
1. に対して・について
2. について
3. について
4. に対して(・について)
5. に対して

「に対して」と「について」は意味用法が似ているところがあるので、類義表現ということができそうです。類義表現については、前回、「意味の幅」「語の成り立ち」「話しことばか書きことばか」などから違いを考察することができると述べました。では、「に対して」と「について」の語の成り立ちを見てみましょう。それぞれは次のような語から成り立っています。

「に対して」：格助詞「に」+動詞「対する」のテ形
「について」：格助詞「に」+動詞「付く」のテ形

したがって、「に対して」は動詞「対する」という意味を、「について」は「付く」という意味を有していると考えられます。前者は「向かい合う」、後者は「触れる、離れない」という意味です。

「に対して」と「について」を図で表すと次のようになるでしょう。



「に対して」は、矢印のように物事に正面からぶつかる形をとり、一方、「について」は物事を取り巻く形をとります。こうした両者の基本的な意味から問題を説明してみましょう。

問題の1は「田中さんの意見」を「どう思うか」ということです。ですから、「田中さんの意見」に正面からぶつかる形で「どう思うか」と聞くこともできるし、「田中さんの意見」をめぐって「どう思うか」と尋ねることもできます。2は、「田中さんの顔」ですから、普通はそれとぶつかる形で(言い換えると、批判的に)とらえることはないのので、「に対して」は不適切になります。一方、「について」は可能です。(もし、田中さんがひげを生やしていて、そのひげのことをどう思うかであれば、「田中さんのひげに対してどう思いますか」も可能になります。)

3は、「話す」という動詞を使っています。「話す」は通常、「～に対して話す」という言い方はせず、「～に話す」となります。もし、「に対して」を使いたかったら、4のように「文句を言う」とか「抗議をする」など、はっきり正面から直接ぶつかることを表す動詞が適切になります。

4は「に対して」が正解ですが、「について」でも可能です。その場合は、田中さんに直接ぶつかるのではなく、「田中さんのことを悪く言わない」という別の意味になります。5は、政府が「急激な少子化」に対応して政策を打ち出したのですから、「に対して」が適切になります。

ここまで来て、皆さんの中には気づかれた方が多いと思いますが、「に対して」と「について」のような類義表現を比べると、それらの前に来る語、多くの場合名詞と、あとに来る語、多くの場合動詞が重要になってきます。

名詞 + に対して/について + 動詞

特にうしろに来る動詞は重要で、結び付きやすい動詞を覚えておくと「に対して」と「について」の使い分けができやすくなります。「に対して」「について」が使われやすい動詞をまとめておきましょう。

思う・考える (について・に対して)
話す・説明する・書く・まとめる (について)
文句を言う・抗議する・抵抗する (に対して)

参考文献

市川保子 (2007) 『中級日本語文法と教え方のポイント』 スリーエーネットワーク

このコーナーの担当者：市川保子 (日本語国際センター客員講師)
このコーナーについてご感想や質問があれば送ってください。「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。
英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>です。